

No 41
31 Oct. 2013

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 発行日 平成25年10月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-6-10 大橋ビル1階 コスモメディア(株)内 TEL03-5604-8611 FAX03-5604-8613

パプアニューギニア独立記念パーティーに参加して

パプアニューギニア・ツアー・オペレーター 株式会社グローブ 代表取締役 中村 彰

2013年9月13日、ホテル・ニューオータニにおいて、パプアニューギニアの38回目の独立記念パーティーに出席させていただきました。今年も多数の参加者が、広い会場を埋め尽くさんばかりの大変な賑わいと成っていました。

こんなにも多くの関係者の方々が居られるのだと、今更ながらパプアニューギニアと日本と関係の深さに感心いたしました。

私とパプアニューギニアの関わりは、ツアー・オペレーターとしてパプアニューギニアへの日本人観光客の誘致を始めた1979年(昭和54年)から始まりました。当時日本からパプアニューギニアへの訪問者の殆んどは、慰霊巡拝が目的のお客様でした。

パプアニューギニアへの純粋な観光を目的としたお客様に、まずタリ・カラワリを中心とした商品を紹介していきました。

その後、マウント・ハーゲン、ゴローカ、マダンを含めた商品を必死にセールスした事を今も鮮明に覚えています。

当時は旅行関係者で、現地に住んでいる日本人はもちろん皆無でした。現在はと言うと、まだ少数ではありますが、日本人関係者が住んでいて、訪問されるお客様のために日夜駆けずり回っています。その姿を見ると本当に隔世の感があります。

この間に、パプアニューギニアと日本の関係は、確実に深くなり、少しずつ距離が近く成って来たと思います。今年是非常にうれしいニュースが有りました。日本・パプアニューギニア協会の、ポートモレスビー支部が7月29日にオープンした事です。パプアニューギニア政府から、正式にNPO法人として認可されたのです。

今後、パプアニューギニアを中心とした南太平洋の国々を含め、さらに緊密な友好関係を築いていく上での、大きな一歩を踏み出したのだと思います。

ポートモレスビー支部を中心に、青年部の活動をバックアップしていけたら、将来に向けた大きな組織展開が出来るのではないのでしょうか。今後の活動に大いに期待しています。



自衛隊のパシフィック・パートナーシップ2013による パプアニューギニア訪問について

当会名誉顧問の堀江正夫氏よりレポートを頂戴いたしましたので、次の通りご報告申し上げます。

パシフィック・パートナーシップは医療活動、文化交流などを通じて、国際緊急援助活動、国際平和協力業務において自衛隊の医療技量の向上、関係国との相互理解、民間団体との協力促

進が目的とされ2007年より実施されております。

本年6月22日にウエワクの慰霊碑の参拝の後、ヴァニモにおいて25日、26日に医療活動等が実施されました。



ヴァニモで現地医療関係者に気道の確保要領を教育する
航空自衛隊 山口1曹



「ニューギニア戦没者の碑」参拝
2013.6.22.



ヴァニモで現地の子供の歯科検診をする
陸上自衛隊 相羽歯科医官



剣道で現地の子供と交流する自衛隊員



医療活動等の支援のためヴァニモで投錨する護衛艦やまぎり

パシフィック・パートナーシップとは、2007年より米軍が主催している活動で、アジア太平洋地域諸国を艦艇などで訪問し、各国政府、軍、NGOなどの民間団体の協力を得て、現地住民に対する医療活動や文化交流などを行うことで、参加国の連携強化や国際災害救援活動の円滑化などを図る活動です。パシフィック・パートナーシップへ参加し、医療活動及び物資などの輸送を行うことにより、国際緊急援助活動や国際平和協力業務の医療及び輸送に関する技量の向上を図ることができるとともに、軍民間の調整・連携のノウハウを得ることができると考えています。

また、医療活動などを通じて、参加国及び訪問国の軍人や民間人との交流を行うことにより、関係国間の相互理解及び協力関係を増進し、国際的な安全保障環境を改善することができると考えています。防衛省は、2007年以降、毎年、海上自衛隊から要員を派遣し、医療活動に参加してきました。

2010年には、初めて部隊を派遣し、海自輸送艦「くにさき」

と陸海空自の医療チーム(医官、歯科医官、薬剤師、看護師、薬剤師等約50名)を参加させるとともに、NGOなどの民間団体(4団体22名)とも協力し、ベトナム及びカンボジアで医療活動や文化交流を行いました。

2011年は、東日本大震災への対応のため、派遣規模を縮小し、医官、歯科医官、看護師、薬剤師等数名を東ティモール及びミクロネシアに派遣し、医療活動や公衆衛生教育を行いました。

2012年については、自衛隊輸送機を初めて派遣するとともに、自衛隊医療チーム(約40名)、海自輸送艦(おおすみ)、NGO等(2団体他19名)をフィリピン及びベトナムへ派遣し、医療活動や公衆衛生教育を行いました。防衛省・自衛隊は、トンガ(6月12日～6月22日)及びパプアニューギニア(6月25日～7月6日)で活動を行い、陸・海・空自衛隊の医療要員(人員約40名(調整要員を含む。))、海上自衛隊の護衛艦(DD)やまぎり、航空自衛隊の輸送機を派遣しました。

(防衛省HPより)

堀江 正夫氏による 東部ニューギニア作戦の 講演会に参加して



協会事務局

先にご案内いたしました堀江正夫氏(当協会名誉顧問、陸軍士官学校50期陸軍少佐)によります「東部ニューギニア作戦」についてのご講演が10月20日に靖国神社「遊就館」行われましたので、山下会長をはじめ有志で拝聴して参りました。

午後1時から3時までの2時間の予定が4時にまで伸び、98歳の堀江氏の3時間にわたる大熱演でした。参加者はおよそ200名ぐらいいでしょうか、満席の状態でした。司会は、ジャーナリストの笹 幸恵さんがご担当され、堀江先生との息もあい、パワーポイントを使い分かりやすいご講義です。

ご講演は、東部ニューギニア作戦全般の解説に加え、なぜ陸軍がニューギニアで作戦を開始したか、つまりミッドウェー海戦までは海軍がフィジーやサモアまでも防衛圏として視野に入れており、ラバウルやガ島が海軍にとって重要であったことから海軍の作戦に呼応して陸軍がニューギニアに投入されていた経緯など、根本的なお話しも興味深いものでした。

東部ニューギニア作戦以前の南海支隊のポートモレスビー作戦においては、18世紀のイギリスの探検家がポートモレスビーまでオーウェンスタンレー山脈を越えた「らしい」という記録だけを頼りに、作戦が行われたなど、驚くようなお話もありました。

日本軍と連合軍との、圧倒的な戦力、飛行場や道路の設営能力の差に加え、連合軍に制空権、制海権を奪われた上での作戦遂行が困難を極めたか、食物はどのように調達したか、死んでいく戦友の姿、そして堀江氏自身が死を覚悟した時のお話など、お話しは真に迫るものでした。

生き延びるために必要なものは「個人が持ち合わせた運」「胃腸の強さ」「神経(精神)の強さ」であったとも堀江氏言われます。戦闘で亡くなった方

は全体の35～40%、栄養失調やマラリアなどで亡くなった方が60～65%、終戦後帰国するまでに船上で亡くなった方、復員されてからも多くの方が5年以内にも亡くなられたなど、東部ニューギニア作戦の壮絶さが解ります。

堀江氏は、東部ニューギニア作戦に投入された各部隊が如何に立派に戦ったかを語り、そして未だニューギニアに眠る戦友の御遺骨を祖国へお戻しすることが今の自らの使命であると重ねがさね言われます。

戦後日本政府の遺骨収集団がPNG入りした際に、PNG政府がラジオ放送で全国国民に対して遺骨収集活動に協力するように指示を出してくださったこと、また戦後オーストラリア政府によりPNGが整備されたことをお喜びすると、PNG政府要人は「オーストラリアは友人だが、日本人は我々のBrother(兄弟)じゃないか」と言われたことなどに大いに感銘を受けたと語られます。それは亡き戦友たちが後世の私たち日本人に残してくれた大きな財産です。

戦後、堀江氏ら戦友諸氏が中心になり、戦時中ご迷惑をおかけし、戦後も遺骨収集等でも御世話になったPNGの方々との友好のため、日本パプアニューギニア友好協会を設立されました。友好協会は解散されましたが、現在の日本パプアニューギニア協会がその意思を引き継ぎ、友好活動を継続していることにご講演内で謝辞を頂き、我々もその責務の大きさを再認識した次第です。

私ども日本パプアニューギニア協会は、戦友遺族の方々、民族学などの学術研究の方々、そしてビジネスや政治などでPNGとの接点をお持ちの方々全ての人たちを仲間として、より両国の友好促進に貢献して行かなければならんと再確認した1日となりました。

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第33回

「みなさん、こんにちは」

京和商事
株式会社です。

〒102-0071 東京都千代田区
富士見1-3-11

TEL 03-3230-2367 FAX 03-3230-2369
http://www.kyowa-shoji.co.jp

缶詰というと、我々は、安価で非常時に便利な物というイメージがあると思いますが、かつての日本や、現在でも冷蔵冷凍施設が未発達な世界の国々において、缶詰は、食生活の主役であり中心となっています。

世界第6位の海洋国家である日本は、豊かな海流の潮目が存在し、世界有数の漁場を持っています。そして、電気製品や、自動車よりも以前に、日本の水産物の缶詰は、世界に向けて大量に輸出していた代表選手でした。マグロのツナ缶や、サバ、イワシ、サンマやホタテ、イカなど枚挙に遑がありません。有名な商標として、777、ゲイシャ、スリーダイヤ、マスターA1、ボタン、そして、サンフラワー。懐かしく思われる方もいらっしゃると思います。現在、その多くが外国産に移行し、日本の製造で水産物缶詰を輸出しているのはサンフラワーのみとなってしまいました。

当社、京和商事株式会社は、今年、40周年を迎える主に日本食品を輸出している貿易会社です。商圏は、戦前の日本食文化が現地の方々に残っているグアム、サイパン、パラオ、ミクロネシアを中心に、太平洋周辺、ハワイ、アメリカ西海岸、豪州にまで広がっています。他方、



2003年に、先般のサンフラワーの商標を受け継ぎ、日本の水産加工物輸出のかすかな炎を灯し続けております。

食を輸出することは文化を輸出することと考え、日本製造の商品にこだわってきました。日々、各種展示会に積極的に参加し、メーカー様との関係を重視し、弊社の商圏において、辛口ビールに発泡酒、吟醸酒に本格焼酎、塩味、豚骨の即席ラーメン、ごまドレに長期保存の大福、熟成酵母パン、江戸前赤シャリ等、都

度、従来と違った日本の新しい食文化を紹介してきたと自負しております。

現時点では、弊社とパプアニューギニア(以後 PNG)に、接点がありません。かつて、PNGのサバ缶詰市場でサンフラワーブランドが一世を風靡したと聞いたことがあり、PNGに関心を持っていました。当協会の法人会員であり、大変お世話になっている協和海運株式会社の高松様のご指導により、当会に入会し、PNGと接点を持つに至りました。

この安さのみが求められる世評の中、サンフラワーブランドで時代に逆行する新商品を出しました。冬季の味覚、脂ののった真サバのみを選別、限定製造した日本でしか作れない旬の味まさに、ゴールドラベルのサバ缶です。通常の倍以上の価格なのですが、決して豊かではない国々のお客様からご支持を頂きお陰様で今年は早々と売切御免となりました。

いつの日かPNGにもサンフラワーのサバ缶が輸出できればと思います。これからの、京和商事の活躍にご期待ください。



事務局からのお知らせ

第3回「PNGを語ろう会」＝「Kivung Bona Toktok on PNG」開催のお知らせ。

11月20日(水) 國學院大學准教授 中山郁先生による「PNGにおける戦地慰霊―その歴史と現状」詳細は事務局まで。

訃報

当協会会員 鈴木弥一郎氏(東部ニューギニア戦友連合会会員)が、9月26日に逝去されました。享年 92 歳。ここに謹んでお悔やみを申し上げます。

当協会法人会員、株式会社 マルチウェブ会長の井原氏が次の通り、PNGの名誉領事にごなられました。

在取手パプアニューギニア名誉領事館

Honorary Consulate of Papua New Guinea in Toride

〒302-0034 茨城県取手市戸頭1142-1 NCSビル6階 電話:0297-78-7002

名誉領事:井原信近氏 Mr.IHARA Nobuchika

管轄区域:関東(除く東京都)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。会員数 2013年10月31日現在 *法人会員/32 *個人会員/122

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法/郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費/個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1000円

会費受付/郵便振替口座をご利用ください。

口座記号/番号 00140-2-277582

加入者名/トクヒ)ニホン パプアニューギニアキョウカイ

問い合わせ先/日本・パプアニューギニア協会 事務局

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-6-10 大橋ビル1階 コスモメディア(株)内

電話 03-5604-8611 FAX 03-5604-8613 E-mail: info@jpng.or.jp

URL <http://www.jpng.or.jp>